

8 7 6 5 4 3 2 1 0

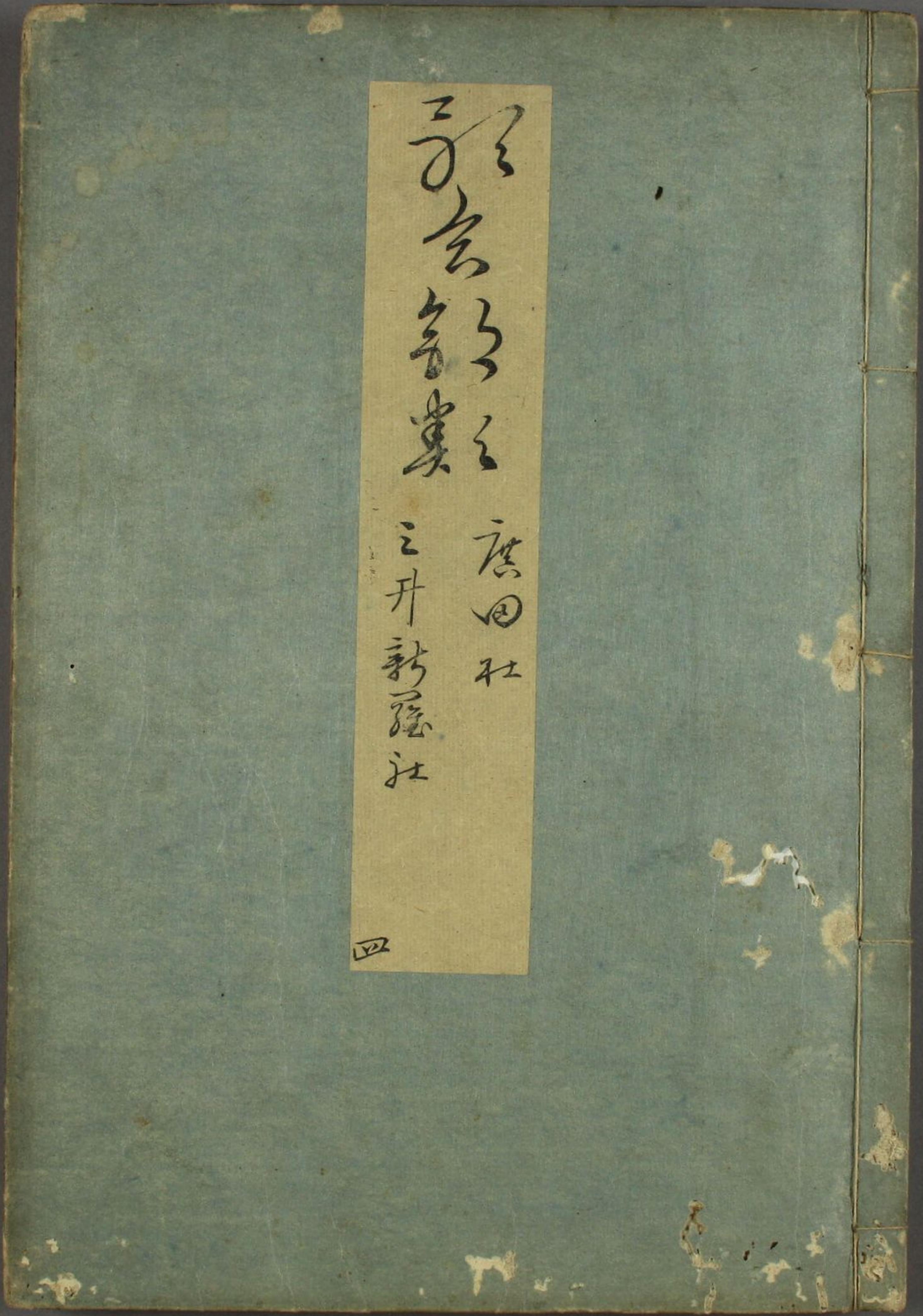
9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

詩言新編

卷四

上

四



廣國社
秋合

秉安二年十二月八日
道因入道勸進之

題

社頭雪

海上眺望

述懷

讀師

講師

判者

正三位行皇太后宮大夫藤原朝臣

押紙 定家卿自筆云

殿上人暑書寫之時彼略了不可用之

一番 社頭雪

新古 壱勝

正三位行陸奥出羽按察使藤原朝臣公通
右

御まこと見事な筆ひよしよあくめとほそとせやいとせん
左奇風うすらきをうそてかとりつすと手合を
奇れもはしあいとめくをくわゆうせん奇の翁ひ
かうづくはく社頭乃もかやうへそくとくとくやく
下のよれ初向文字わうまくへりりか翁かひゆ
天正元年の内裏手合うと判者とあやしむすみゆ
キ一したううく翁のゆくとふとくといきみれ
すといふとく翁のゆくとふとくといきみれ

二番

廣田

龙 持

正三位藤原朝定實定

なやまひもとしゆまを白宮に詣ひて、
右
志のばらよとどくとおどすと、ぬがらの事。たれらひい
おもとと雪のひそくゆく海くいじたとく、
ひなりとて、かくも判者のとひひくとゆうとく義理。うる
かくして、思ひわけられとんむりともゆう。わからぬ
おもととて、まやまくわくとて、ぬうもとく、ふかなく
ぬくとけり。ちあはんとて、ぬうもとく、ふかなく
ト。社ひよ通せらん。おとことゆきとたすむと
くかくとゆきと勝劣定ひくとおとせり。

二番

龙

太皇大后宮 小侍従

三番この間ままでうりとえとそくらむの三よみくらべてうらうそく
新勅 右 勝
正三位行權大納言藤原朝臣實厚

山ゆかとて、す絶が衣。海をとがひとて、くわくわうり。せんか
たぬぬひぐくとく。小窓、波よきとくかくとく。れうり。せんか
玉とあひて、かくにれもなみまう。れくわうりの姿。せ
うづくとく。體よアく行り。よだき。うじをわうり。男
初。うきと毛とぬくやとく。くわとく。ひかわら

四番

龙 持

從二位行權大納言藤原朝定實西

どくのこをひく。あゆうをまく。ひく。おれらうをまく。ひく。

右

從五位上源朝臣師光

まとうと今日を人と表わすに仕る方に神もみしん
た可ちのうゆふまとさりやつらん姿のとて
坐りうるよほはまくまゆもひやうかむすま
えんひと衣わやとうもれあうあくとばくめのひ
しゆくわだくとこれとやうとゆとむとむた可
風神是曉歌仍舊とすゆく

五番

左

觀蓮

左京大丈教長入道

けふゑをかるよしこくとみがくくよもとづはせ
右勝

參議後三後衍大弁藤原鷦良美徳
あめの延命の書消まく色なぬわきもむく
左毛れうらうひ可ひ姿あくとていふ西
きくとゆうといふあつあまくとせゆうりや

よその色くにとよまれうるよとへゆうかく又身を難
麻とりうてうどりうそとく穀本色林ゑふうに
やひすくね君れうつじよあくわとせんしゆく
そりやうにそとのえりうくみうもくわく下
ともりうゆうへきくみやゆくんむわく白宮
お消ぬまのそとのえくくわすれふうとくうわく
くくとくかむむうとくとくうわく
とくとくゆるゆく

六番

左

三河内侍

二条院

林ゑの香とあられを海宿よよしんれ神やうゆん
吉嶋秀喜のよよ風吹へねうれもむく／＼なむ

右勝

參議後三後衍大弁藤原鷦良美徳

右手やまうらへまち神やさきさんやつづらと
ひともくすくまくわらはうの賀本義れ事とくに
みとりれどもうれりてうれりてうれりすくわ
ゆくんち井めまくの後不風とあくせてねのうれ
くと無津白浪とのがくの姿吾れかくすて
水娘始りうとうがうりわらすくわらすてうえすて
勝とく

七番

左持

僧俊惠

あめうらみ神うひまきあくうすかられ事そゆううまつ

右

正三位行皇后宣文藤原朝臣俊成
いふくみひらゆよしらかわやかまくの後ふじりーくに
た神うひまきあくとまきりれり宮そうちうまは

わくうんじとめくとそわくられち密洞とく
事なまくと利考れ寄よわきわは例不加判

八番

左勝

正三位行左衛督藤原朝臣成範

盛方

神うやぬれそめをまことあめ我あくとくわまれ
たうううかくをくちくもくれとくうかくわ
せこもこくに庭かれとおとこくとくうかく
くくわくわくせれそくとくううすくわくわ
くくわくわくんあうれ離はわく你とたうじ
をわれと勝やアキ

九番

龍持

正三位行花近衛中將藤原妙吉家

右臣様のとくえすか月の色と今日秋とふるし君が
右

僧登蓮

雪夜もあせりとくとくてもうかねどくまうてか
た往々はかく一月のえときの休きとくとも君が
とづくぬ社の弓月や君これりくとくとくとく
ゆくくゆわちあきりあくかくさくとくとくとく
まかくからゆとりくとくとくとくとくとくとく
まくとくゆわたひゆくとくとくとくとくとくとく
下とく彼をとくとくとくとくとくとくとくとく
下とく彼をとくとくとくとくとくとくとくとく

十番

左

前承官大輔

右勝 徒三位平朝臣經盛

白毫ひきとくとくとくとくとくとくとくとくとく
たねかすすまとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ゆりうきとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
わくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

十一番

左勝

正三位行花近衛中將藤原妙吉家

日赤のとくとくとくとくとくとくとくとくとく
右

清信 右馬頭

ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
右可日本ありつとくとくとくとくとくとくとく

三すとひづるすいとあへとむを侍うましむ
羽つひきわくのゆきとあへてはりてはりて
まつもろ社とそそりけりやかれかうの社か
やどりこめくらへりへんともくはりやまは
みたれ

十二番

左持

西行近衛中將藤原朝臣頼實
さゆねうすうすうすうす
右
留行皇后宮藤原鷺臣季經
柳家玉雪あやめよもよもももももももも
左第二ノ御のひかわくそくそくそくそく
那ちあきひえととゆうやえそんじくの無あり
てうねうねうねうねうねうねうねうね

うねうねうねうねうねうねうねうね
はあくぬうくふえくふとたうすくまくま
ゆれむわくやくやく

十三番

左持

西行近衛左京大臣藤原鷺臣脩
新傳古
右
少林宗念
ゆうちとゆうじとゆうじとゆうじと
たおいにきと優麗めとととととととととと

物

十四番

左

正行下神祇伯頭廣王

右 情

沙弥道因

やまとじれいが氣をもて社をさう一あらうよまち
たすくとゆゑお作りこもうひもつりさんや
れ鳥羽の御とくわらまてほのわうあうりに
けき組ちすれ民庫の山をえきてとづく深
ふ下叶てとうとうとえくわれこれあからみ
ノウル

十五番

龙 持

賀茂縣主政平

林葉よわうじ萬代山までみのんむすめるん

右

憲盛

わくあうすえび神やもかんあまの後へあれひえ
からとむかうのく翁めくわうとおしません

十六番

龙 持

賀茂縣主重保

やまとめのまよ庭す宮の神もみもあらう神ともみ
たすくまよ木製ももひ下とと云とやうと神の

なとりうんめくをねと申ひ五文字や次う信
けじよしよとくわうねとやがめの神があくかん
よみがちのせうとくをんあらうくをとこゆ
以ち持すとくや

十七番

警

龙 持

資隆

後子の山の林皆のよあくをうけたる者

右

正位下行右兵衛佐平朝吉經正

雪のハ神とそへせりん疏かはまうニ元ひらま
方乃へてまきをぬるや云古れ神とそへせりと
からりまこと與わりくがくしゆうとたろと羽の鳥
御おれをそきなとゆうやと羽と羽と一黒つぐ
やまとゆきとゆく

十八番

龙 持

廣季 助教

ゆまくあそくゆくやゆつとくし雪つまくちとくや

右

廣言

人をとふとほし神もやしう田乃とまくふれまくも

左それとくりやうりくんせりつや翁りのりつ
そそくしゆとちと神もやしう田の演うとうくは
やめくとくとくやくとゆとれおちとくとす唐相家
むりくとく勝とく

十九番

龙 持

親重

宮ゆく行重此かとくうりり行くらうそとせのとくとく

右

朝宗

あこひきそひとくのまく本の貰ふまくもとと高筑つまくもと
たけわきのゆく高よしのゆくもととあてよのゆく
あらうくとも高くも高くもと高いとゆくもととあく
うくともとわく

二十番

左勝

李廣

實ふれを松竹もあくもあめらううらやまきもあくも
右 伊織
志めくらみめりまのまのじせよもく代おのじとぞつま
たあそむれのれい優ゆけよもくたんもなほさ
せてあくやまくもあくんとりうひとくとくとく
ゆかたうゑ拂

二十一番

尼持

顯纏王

浮うりきめくとくえあひておおきくまうれちくゆく

右

瀧觀

播磨守

ゆかう心迷こそすれ白娘よ重ねはりうほまくも
たすくあくをあくくもあくせくゆくもあく
よまくあくをあくつとせゆくもあくなうく
なくゆくにゆくとえくをくとえくれりくまく
わく

二十二番

尼持

仲纏

と朝う終うまくまくゆくゆくやのまくらう事の材滑

右

放失吹拂門右大臣家作

今朝うとくとくゆくみのまくらう事の材滑
左 たあくまくとくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
えゆくまくとくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

二十三番

廣田

左

李定

富士山ノ名をもすと云ふ人といひ神と仰げりとおもひまつ

右 勝

廣盛 刑部大輔

りそらに神りもしらゆつてあすらぬ浪のちよ
左奇ばらわまにあすらよはゆもとを決めすよ
してありひまくとくつゝまの匂ひありすよ
それがうてとへだてゆる奇礪らに神の津を
うかと海りうちもぬ浪のゆみもいわむれ
くさきともれどもれどもれどもれどもれども

二十一番

左 勝

邦輔 皇祐文殿大進

御まへゆくゆまく波萬葉天はくくのまくさん

右

安心

神のゆねえと色のゆ浦りし事と網のものと
右奇ばらゆりひなれくゆうよひやくゆうよとも
あらうりしとくとくぬりいのちも晴れ初めすよ
宇列うらやけたの天はゆゑゆよゆきあらま
そらもややくさん

二十二番

左 勝

懷纏

ゆきやゆすとくく村をあそびくもくよゆくとく

右

僧祐盛

作花の君はゆきとくとくとくとくとくとくとく
左すすみゆきくみじく能とゆひまくるも
まかねくくくくくくよなとくとくとくとくとくとくとく

ひよきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

り色がうれしかれやうとへ右奇神
つり法のわづらへとまくらとひりへ
よりくわくへ

二十六番

左

懐能

神さるおまのねうもとゆあはゆ

憲經

落さりと庭火のよしめきりの作りふと事とあれや
たまつう徳をうみよけらぬすとりうとせわん
れうめうすなりへたうりをほくとととととととと
くとあたしてゆやとくあわせゆくとくとくとくとく
の落とすへ

二十七番

左

智經

右

經尹

まうだうしりきのじゆうもとまくらとゆとせとせ
夜の事へあまくは済よむとあれて本あとせやうじとせ
なめうじとやうまくわうへなどゆうめやううたま
くは済れいとよみよめをやううれぬむじゆう
もゆうと相成りのうねうとひうやうれ
たううかうよ付て勝へうる

二十八番

左

阿闍梨大法師姓阿

まうだうはうおまくは済事とあてみてくのまくらとせ
右

僧淨縁

まうだうき方へとすまひうまの済松まくらとせ

大物をもあらわすとおもひかづきと手のほれ
おもふや

二十九番

尼勝

本教宮中納言

津廻の柳をとてゆままで後ももむとたれ多め

右

索覺

あはえとてゆやまゆくよきうおほはばはりとそよな
を新ひるいをとがまともするうつうひじれく
アサシムホとおもひは神まつも年月まわりとく、
るゆううと思ひれどもひとひと姿にゆま
れすの鷺相似假た可も拂

一番 海上眺望

尼勝

按察使公通

朝りとけむりとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと

石

大藏重家卿

浪さとみののみとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
たすりやのゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
のゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと

二番

尼勝

前大納言實定

じう海とをとあひよのやく度とをとれとおほき鳥

卷之三

右

賴政妙居

ヨリあとえゆくまひみとまれあえのせよへや
た羽とてゆくへてえすひうするもよの御
みゆうりよれぬめくらめうれりうね
室を進候蒼海よりひ龍門翠壁眉相對かく
分詩をよせ候て幽玄のそやくゆれあ入るトまく
てりあらうんうくとめうん地とまえま
八せじよ人あいんはうわうめうん候うん候
て勝芳不く翁もく翁も

三番

左勝

小侍従

天津元吉才や海れまくれんあみり年乃のあがとんのれ

右

權大納言實房

わうふ浪らすもひまよりをめえ御りらむらす
たすらもくらうんくをかくねもあすく浪らも
すくらうらうたつすく羽りきとくわくく思ひ
ゆきゆきをほのめひとやくらとひのあめくきを
うらうやうくわくんじくたまくとくや
みのとりうねまうりわくく

四番

左

新大納言實圓

右勝

師光

さのくみやうりがとまれうく只教くまうとある
ぬなまくはゆくらやもみきりかとくりゆくやまうて
たんね浦あらくわくりとくそれあくまうとくのうて
あえねんねとくのうとくのうとくのうとくのう

小出のまきやつづく波うちをまくとく地里
ひなはまくらまくらまくらまくらまくらまくら

五番

丸勝

觀蓮

浪
裕
浪ひうみうぬあれよとるよと溝よみりゆきのよす

右

丸大辨宣繩

うと雲れの海浪らとみゆせへまくえくの経しまさりま
左可浪ひどめうふまの氣きうかづひすのうれす事
よゆまとゆまのうきぬみへあれもりうわむじ
てめくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

六番

丸

冬河内侍

石勝

寧相中將實守

われ東ひ引風は夕浪めりうかくとくゆははりよ
左
かとれ海ふ立かとくゆめりよとくゆはりわからぬ
右文多つよとくゆめりよとくゆはりわからぬ
よとくゆめりよとくゆめりよとくゆはりわからぬ
よとくゆめりよとくゆめりよとくゆはりわからぬ
よとくゆめりよとくゆめりよとくゆはりわからぬ

七番

丸勝

僧俊惠

雲れ浪ひの舟ひまくらむあまの河ありまくらむ

右

皇太后宮寺俊成

月琴
和田のゑ唐ふみれぬ、舟底めぐるをえどそけかくまくまく

た可天ひけゑゐこゑやほきうとくえんの邊強將
を之御漢侵十方盡に勝ゆるりくふとれく
ゆりゆくもくくそくせんやれもすい鳥をひねく
あくまくも判あく威とらてやくは形もくす
ん神鳥もれあくとんじかうとやつてくわくも
蛇皇のひきうとくうくやくんつちうのく城
み万里のなとくゆくわくうくうくうくもく
ゆきうきてひたあ

八番

左持

左兵衛督成範

をほ浪矢の河やとみうあたりぬのううりすくハ

石

盛方

漕ひくみをさうかくみをせよせよせよせよせよ

たもとあらあれたのううめよかくうくうく
やあらわりうくうくうくうくうくうく
うくうくうくうくうくうくうくうく
うくうくうくうくうくうくうくうく
うくうくうくうくうくうくうくうく
あうううううううううううううう
あうううううううううううううう

九番

左持

三位中将實家

今日そひ都れむへ山のともや
となりとおのめだよりそぢ
右

僧登蓮

徳重あらわくもうりきりうくやゆくもすくもよひ
た都の方のひまくとじゆくとなりとくとくとく

やなぐらひそよんせとて身の姿をゆくと
われも身ぬわも身うきりとをりかへつて
ゆふうへとまくとまくわれ恨やかにまくと
娘とうやとく脣もみれすがんせしゆまくと
くおりひとりとくとくわをうかんうりむくと
をゆるべとわとやくとく

十番

龙

太捕

のりごとくわむすびくわれとくわせよくとく

右勝

後三位經盛

おまけ浪あはれのうねとくもけいわくとくめのう
たかめいゆうよからくわり村とくわりうわく
きめなとくとくとくとくとくとくとくとくとく

十一番

左持

右近中將寅宗

右

右馬樺頭隆信

明かよ内志れ興と漕くとぞ雲とく海の船とく行ぬ
たとまのうれまふとくとくとくとくとくとくとくとく
んすみりとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
かこちすとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ありぐる奇とくとくとくとくとくとくとくとくとく

十二番

左勝

右近中將賴實

はづくと山あひ與とみ面せしも針よぬよりの筆と舟

右

皇太子亮季經

おまうけ我ととまに御ん裏とれどもかう細人
左手りりにさうあつをくらひてかう升り
ぬよあまのぬあくらうあれりとくとく
きわどもえり我ととまやうやあくとくとく
ゆうとおまうけ我ととまやうやあくとくとく
食乃用へ姿とそとむとむおうくもかれとす
萬よとくとくとくとく

十三番

左京権右近脩範

雲情くと方れもまよとみばよひあまれかゑひ後柳

右勝

沙汰宿命

竹の葉とねとにまの難波とせとくゑひやまくも
たうのまきまきの海とく姿とくおとくやくとく月と
あまの小舟と浪柳とくまゆうのすくとく月と
とそもとくれまくとくゆういとくとくのれりと
とくりとくれまくとくゆういとくとくのれりと
まくとくとくれまくとくゆういとくとくのれりと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

十四番

左

顯廣王

だくとあまの奥乃浪さうりのとくよぬよあまのぬ

右勝

沙汰道因

浦島うらとまくらをまかば浪波うらとまくらやまくら
たまくらうらの浦島の浦とまくらせへとやうばくら
りはまくらすうらがうらとはまくらめれまくら
まくらうらやうらよわうらやあいあめやうらまくら
まくらうらもなまくらまくらまくらとひまくらまくら
まくらうらまくらまくらまくらまくらまくらまくら

十五番

尾

賀茂改平

やまのうらまくらぬ浪うらの月と日と海うらうらうらにまくら

石勝

憲盛

浦島うらがやまくらの浦うらん浪うらまくらまくらねり村立
たまくらうらまくらぬ浪うらまくらまくらまくらまくら
まくらうらまくらまくらまくらまくらまくらまくら

からりあうめやあす一萬れうよひうれどまくらうれ
きやうめやあす一萬れうよひうれどまくらうれ
一萬れうよひうれどまくらうれどまくらうれ
思ううよひうれどまくらうれどまくらうれ
かううよひうれどまくらうれどまくらうれ

十六番

尾持

寶林重保

魚津うらや塙うらよれれまよみまよや浪れえうらん

右

道清

いそくうらよれれまよみまよや浪れえうらん
たまくらうらぬ浪波うらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

十七番

唐

元

左 持

資治

狼ノテヨシマテモテモトモトモトモトモトモトモ

右

經正

漕出ノウアセテタリモテミモレ狼ノケニス乃リ五
左エ持持モテテシハハノヒロノヒロニシモ
モツムモツムモツムノクニンノアリクヤモトモト
モツムモツムモツムモツムモツムモツムモツム
モツムモツムモツムモツムモツムモツムモツム

十八番

左 持

廣季

みもるまし無乃極らふをと地て鬼の海シトヨミモ船ひはま

右

廣言

船の系西トヨミテヨミテヨミテヨミテヨミテヨミテヨミテヨミ

十九番

左 持

親室

もろくと鶴代シテヒメトモトモトモトモトモトモトモトモ

右

羽家

和風ノ御イシキシ小野アマ毎ノ雲ノ落トモカタナカタナ
カタナカタナカタナカタナカタナカタナカタナカタナ
カタナカタナカタナカタナカタナカタナカタナカタナ

二十番

左 持

李廣

鶴うれかくとひよどりの鳥もそぞれぬとすは

石

伊緑

かくや浪らるありあると風よそりこれあす
たすくすすとゆうよやうまのうれあとくとはも
そいめそやくてもとわせえゆうち可くらしく
羽れうきはとものうれんと純真
あめのうれんとやくんいつと福んとくいと
やくんとせ

二十一番

丸持

顯緯王

ヨシケル浪るきりゆう白毛れくとくにふけりま

右

隆親

ハシニキ無津多くぬまくとくとく井のまくわく井湯水

左ちの小題りんじくとけり白くなまく
たひやくましなむきれとくとくやゆまくとくとく
ゆかく又興はくねらとくとくモ井よまくとくとく
ちやくゆくとくとくれとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

二十二番

龙麿

仲德

瀬りややせらうかよ瀧あく浮木小乃まく今とみ

右

佐

おやほうかくぬりあまとみえとくとくとくとくとく
たひうや本よのれうもくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

やうやくやまとへまくすゆやうよすゆとゆ法
騒ううか木トマトマリトマリトマトキ
モ紹きトマトマリトマリトマリトマリト
シヌヨシセシムトマトマリトマリトマリ

つまつや

二十三番

左持

季定

あひるの種ちからとゆまはわづらぬかくまととゆづる

右

廣盛

浪うひやひ鳴鶴とゆまはわづらぬかくまととゆづり
ちすすみひとゆづりとゆづり波下のゆかうり
うきぬくとゆづりふくとゆづり鳥すれ月をく
ゆきとゆづりすれゆきとゆづり古奇二物とゆづり

すばれと搖らうきとゆづり事もくわづくをゆづり
ちすとあさまおとゆづりとゆづりとゆづりと
ちすのしまの山などとゆづりとゆづりとゆづりと
らも浪うなきとゆづりとゆづりとゆづりと
とゆづりとゆづりとゆづりとゆづりとゆづり

二十四番

左

邦輔

和雨乃ゑ浪うすうめり舞れやみすまへ小まよ浦れ

右

晴

安心

りやや煙うすしみすまへ小まよ浦れ
ち姿ちゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ううれりりくらくらくらくらくらくらく
のうとまのれうとまのれうとまのれうとまのれ

二十九番

龙勝

懷緒

豫あつ天休す井のさき舟は漕りさむうりあらすれぬと
右

祐感

ちくまにほき雲駒と豫きといはせと浪やえそひゆ
さかいつとそよぐとさうとあそひやくもすとたまわよ
すくべやうととをきわ浪とよまうとくわくわくし
いかくべやうとけくはくを塗らとそひうまうとく
わくねやたひきのあまのゆうとくとくとく
う天津をさうとりくらうくらうくらうくらうくらうく
うううううううううううううううううううううううう

二十六番

左持

懷緒

なまえ海の塙うげる小豫ともとまくゆうおじいゆう

右

憲經

わまと水を里と浪とぞれくと約乃くやもしはまく
左持くわくわくわくわくわくわくわくわくわく
井のゆく真はまくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
らまくらまくらまくらまくらまくらまくらまく
約のゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ありゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

二十七番

左

龍

智經

かくはとくはりやうそんわうすうせうられのまきうり
右勝 綏尹

わゆのふゆまの浪うどみを浦つひて月いやる
はあうきあどりよぬくからんくわうと二首のみれ
こゑにたきさうくわくよとちよ富貴もうう
さくふみくもあい地うわれとねうのすまう
なうじとみをもうのうとうゆうよのゆ
まくちの後ゆべ

二十八番

左持

性阿

りう田うらうとひて御きの達磨の歎うさづく白波

右

淨縁

わゆやうみほのとじよ浦かしんあくの極えよきじよ
たく納むくもゆうとむうぬうわうとれの岸
のちわまうりゆうがうらわよもとあり達しまう
りそよさうくも浦とくとあくありお下
のゆくの極えよきよとむうううう
ゆとくよわもやあととくわゆめううます
すわもりくわくううとくわくに縁ゆくもねや
たくひよがくうのまれだくわれくわくくもや

二十九番

左

中納言

ばの浦うれしきをけきへ友きくわくわくのうひま

右勝

索覺

じう浦うらうとくう唐めくじよくわくやあくよしき

左可らちりへきのやうに眺望されかどもあく
て海大人の支えよどむやすまゐゆるん右
奇のまのまししかいあうをきこしめんと聞うり
とらめかとらうよひりとうくわややくんのち方
勝とやうゆるべ

一番 追憶

左

按察公通卿

衆とぞひまよどくとてめんをまよひのうきくさ
右 勝

太鼓童家卿

うきふくとひひとし後のせとふゆふくんのうきく
ちちろ奇りもとうきくとくめうりく
ゆくとくとけんじたうのくのとくとくとあ
みのくとくとけんじたうのくのとくとくとあ

二番

左

高大内之實定卿

沙うよひたまくとめれと月日のとすたのもくわき

右 承

賴政

おりゆくとくせみわくぬえひとふちうぢうわとねれ衣は
左可らゆくあまのとくとくすくり
けりね松きとくらえきねよめくとくよけん
ち可らゆくかくらわくの姿りあれま葉はひ
うきくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
即曲れ中よどひとくありの氣うきうわとくとく
奇のけううとくはとひとくとくとくとくとくとく

他と次第に倍よりやゆるんされと仰せられ
あとかゝまく仰れとみち勝とすら

三番

尼持

小竹使

志う代よもよせうと一石清水すしよひあつかれまふ

右

擔大納言實房

シテヨモ衰りてみわすせはくめりとれと候ひりもつ
たれ代もあらぞうとことを居あとうずれより
かくしゆづくすすよまよをなんちあつとも
つまくすみとあづれすくすでやうわづかむ他も
可勝負ともやりもおもともやゆもし

四番

尼持

新大納言實圓卿

新法
のまよゆ候れどものとすとあハ是の候とが爲ひのとえ
右

師光

新勅
のまよゆ候れどものとすとあハ是の候とが爲ひのとえ
右
方天子とてもとてて我あらのありと見え
ゆきあくよとお納へふとどこのま
とうひくとての候もくどういふとゆくとよくと
角しあ前のみ越懸隔をうとすましに

弓筋

五番

尼持

觀蓮

あうせめいかとあ ととと九かかく蓮の身をとあま

右

尼大弁實繼卿

佐山代りもとくらう我身ひかりみ何あくあくの
方角、蓮臺の高像もひたゞくたゞ棘路の昇進
あれどもゆく現當雖矣後鴻已同仍あるわ

六番

左 扇

冬河内侍

さすゑもむじうの仕事もあらぬにあつまつて

右

辛相中將寅守卿

まひとまぢうの仕事もあらぬにあつまつて後世もとものう
おうら廣田の作なづりうゆくとれにあれど
やめのうりをえでやらち寄まつのやまとこゑ
と葉のうめあめあめあじよまのあつてせん
とめよめあくきあきらむたれあ社とけたく
まむむりの傍ヤマ

七番

左 扇

後惠

名すもつはしてぬ御とよじときさるるはすあわい

右

室太后文太史後承

みの振神よのうじとれあじせりのちくともあ
た奇西とよ御とよとよと云ひ姿也くくら
しきえゆもと奇へ方ちくとよとひくらうの迷
懐の毛うすとくらうとよのくらうとよとよと
うりよれよとよとよとよとよとよのくらうと
うくとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
うりよれよとよとよとよとよとよとよとよとよ
うりよれよとよとよとよとよとよとよとよとよ

うへをひくんととせとめとめくへやう

八番

左持

左兵衛督成範卿

二すれ法れよととじゆくひひのうりゆ

石

盛方明昌

表てぬ人とかにあとしもと残していふひのう
左法れよととじゆくひひのうりゆ
こそゆきむかすりやうれいなまううびすこまう
さうやうふねむと我そへなまつう姿こら
ひやわくねくわくとひまくとおもひひくわくわく
もひれえわくとひまく

九番

左持

三位中將賣家卿

ひへうとうく廣田の木かくはりとくねのひちくん

石

登蓮

前までやみせれりとまみれりとくねのひちくん
たうくと廣田なとりうんほすくやくとゆう中よ様
のうれいとよくもくやうはくとよくとゆうれ
宣將愁字作秋心とくう待りぬまくとくとゆうれ
花とくあえよかとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
源ゑ其羽を羽えと偏質者其羽才羽をひとを
ひとの姿よゆうへしたくらや色秋のるとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

深叶風神うりくえわわ

十番

尤勝

大輔

外のアヒアサリナ中はそれねども人とのと作れども

石

従三位經盛卿

神事アヒアサリナ衣とあヒアシル神のアヒアサリナモ
石アヒアヒタニモアヒアシル神事アヒアサリナモアヒア
アヒアヒタニモアヒアシル神事アヒアサリナモアヒア
アヒアヒタニモアヒアシル神事アヒアサリナモアヒア
アヒアヒタニモアヒアシル神事アヒアサリナモアヒア

十一番

尤特

尤中將實宗

アヒアヒタニモアヒアシル神事アヒアサリナモアヒア

石

右馬權頭隆信

アヒアヒタニモアヒアシル神事アヒアサリナモアヒア

尤奇尙者事聖朝内者仰神德幽アヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア

十二番

尤勝

右中將賴宣

アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア

石

皇太后宮亮李經明

アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア
アヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒアモアヒア

内シテさんとやうりにはまくわらへるをゆう御
あすけりひげすと申すかむかはりかどひ
とそともやへやめれとすくらわくわらへとわ
もくのそやくはまよとがめひみぢれめり
ぬ但尼シテ神とすまたくまくまくとくよすの
んりとまととくやくわらへたれ但尼シテ舞

十三番

厄勝

脩範朝臣

宋念

御シテりてあらがうき者みへひのせよわらせとくらま
なすくさみせとあらじるまそとやりくつまつりよじ
くまとあらわとすくい姿シテしとらううりよじ

あとなくわやすらと物をうめまとくらま
あとすぐあたたづうそのまよの字にへまよ
そやえわらす合シテはまくわらへたる
のゆくとよとよとよとよとよとよとよと
うれとよのまよとよとよとよとよとよと

十四番

厄

神祇伯顯廣王

右

道因

まのゆあじれうぬまうゆ二度作りうくとそまの
そもあらまく伊すくわくくとやくわれたのち
もくの神シテととととととととととととと
そまとつうにあひのす合シテはまくわらへたま

さくすてゆりあふうひ祚のうとそむわ
りうなまうとひれんくわもとじ番乃勝負へ
祚ぬよぬとくの不加愚判多

十五番

左持

賀茂政平

なぐくせよあつて津のまれり田の森乃名よとをれ
石

憲盛

かきぬとやまらゆくあらわれどこれてあらとをは
左持する翁はしがくからりあらわしてされ
やつるそいとこうめづれゆくねとめやくもえ
えくゆへ左あとひくまくあさくとせやくは
らねと奇合のあはれよやくゆうぢに奇をり田の森
きゆゑとだわくへ

十六番

左勝

賀茂重保

いはまう木まみよりとあてんれまとゆいこくえん
石

通清

せとまゆくはあひてはのむのうくゆくとせよしん
まんまんゆくとこくとせんくわれともくくいと
外もまんとくうらわくわよわくともくわくと
のとくわやむれまみよみよとくとくうくと
くすくゆんのたの勝と

十七番

左持

資隆

もよのこよのむとととくよのまよと祚ぬよん

右美術院経正

石

まほの小ゆうりの神の威もとれりと我の身の色そつる
方への方へ蓮のそよごの神の行は紫の神の
中ゆわゆのえとおもてゆきとけりは氣り
ひくちゆのゆめくらむのゆめくらむのゆめくらむ
うくやくのゆめくらむ

十八番

龙

廣李

くもふあひのひよひよひよひよひよひよひよひよ

右脚

廣言

いませんぐさみなぐ水無月すやすせすみまちの
たすくかめとあたうどりすみとくとくとくとくとくと
そくとくとくとくとく根乃モヤモヤわざりり
まゆらんされば活通づまきとととととととととととと

十九番

龙持

觀空

いふせすゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
右
朝宗
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

二十番

龙持

李廣

なまめこまめこまめこまめこまめこまめこまめこまめ
なまめこまめこまめこまめこまめこまめこまめこまめ

右

伊櫻

かのうのまちをさへとほりひの田の水をまく
乃すくろへきあしゆら中のえみやとうそ
つてまことあるんぢ可とあるゆりひがくもるんえ
くわくおおよこゆきの匂のうすとやりをま
やれ思ふまきをゆくんしわとよとく

二千番

左持

顯櫻王

うじめれせあくとゆじはせすこむのからまく

右

隆親

津のまくねねうとくとくあゆのまくねねうとくとく
たら文宣つひゆくゆくあるくもくじとせりと
たまくをゆくんたまとくの御ゆくはすくとけされ

二十二番

左

仲懶

ほまくう神よどりやなまくわくわくせりんをくわく

右勝

佐

まくはれえかくうゆたむたうくまくと神や金とえ
た可とくとんちやくをゆうとくとくとくとく
えゆりてわくんとくとくやく事のやくわく
ちまゆのゆきとくのゆきとくわくとくわく
御ゆく勝ゆくとくわく

二十三番

左勝

季定

なげゆみくじとくとくのゆくまくとくわくとくわく

石

廣盛

佐山を越えりのりぬ力行あれとくやあまこさる事無れ
ち可ふかとゆんとうらひとむづくしてゆれ
ちあまのぬすとすくへゆとくとくやまひよゆり
家うきはありもとくふさあみのやまととくとく
ととくとくとてこそが鷹角とくとくやくとくとく
しゆくわくあやうめりのたゆとくとく

二十四番

左寺

邦輔

うみかうくめのまほか様やらてわらまなせと恨てよ
右

安心

せとすよゑひとば神のらひよあじゆは教かぬあ
そも身とおきすみをとくう姿くわゆくとくとく

二千五番

左

懷総

ひつじゆくひみまじよ能くとめうとなくりとくとく

右勝

祐威

ひとわくぬとくの素とくにうきまくらうじめとくとく
そくん角せりをひくへりうり壯年此時の滿岳うる
のよとくぬとくとくとくとくとくとくとくとくとく
らやじくとゆりくやくんとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
よられた山の峰とわくひ羽人のうくわくとくとく

とせりよのとくらよゆかへ可とまううく
やのとおれ様とくらゆかへ

二十六番

尼持

懷能

うそとこくらあめよとすれし我うきとくらるるに

石

憲經

がくくわくらあう下ひうりうくのあへ神よばれうすや
お下のん氣つひ行くをかくせらかくらう下ひ
うりうけ身へ神ようとりうするくううな

ものわと

二十七番

尼持

智經

せ中にとむわからぬよ身へもく田の神と身の身けり

石

經尹

あめのう者よめ(毛)いもういきめのひきだあともうき
たすくら姿ゆよとそくらうやもとくのひもよと
が引きのとくらふんとくらそいとくらそよわれあと
くらとくとくらわくらうあつてくらうくらよま
のうくら葉すくよまくつまよわくまくまく持くす

二十八番

尼持

阿闍梨性阿

石

名めりて頼そくらもりえをなうの我をくらやと
そくらすれのまへのとくらぬやせふとくらあと
そくら初りてあれつひよやけく寄れくゑけき
そくらくれあゆくうふすみくれくらうとくら

淨緣

すゑ幽玄よりそぞくやと化つまもとうれしも
おりしよか多きを修えわくすや

二十九番

光勝

中納言君

みあらじよ承知の事の如きをめ続ひうるどきとせん

石

索覺

花のね我走來り八年とあめあれかねすせりやしきりま
尼寺木庭す。仰うる氣よせり。ゆきと涙の南れ
計感きさくくわくんやも尋ね毛木のあたわ
やさからう事とあるゆひすまへねりひこう
も。されとれたり我身ハ乞りまことにれわづ
わづれふくするわづるもくわづれ

あまうすや道をもとわばくも
人そりよの神

承安二年十二月十七日加判畢
如今馳筆不能沉思後見雖有
恥厭恐神慮也

公通

(勝二持
負一)

實定

(勝一持
負二)

小侍從

(勝一持一
負一)

實國

(勝二持
負一)

觀蓮

(勝一持一
負一)

三河內侍

(勝一持一
負一)

俊惠

(勝一持二
負一)

成範

(勝一持二
負一)

實家

(勝一持三
負一)

太輔

(勝一持一
負二)

實家

(勝一持三
負一)

賴實

(勝二持一
負一)

脩範

(勝一持一
負一)

顯廣王

(勝一持一
負一)

政平

(勝一持一
負一)

董保

(勝一持一
負一)

資隆

(勝一持三
負一)

廣季

(勝一持一
負一)

親重

(勝一持三
負一)

李廣

(勝一持一
負一)

重家

(勝一持
負二)

賴政

(勝一持二
負一)

實房

(勝一持一
負一)

師光

(勝一持一
負一)

實經

(勝一持一
負一)

實守

(勝二持
負一)

俊成

(勝一持二
負一)

盛方

(勝一持二
負一)

登蓮

(勝二持一
負一)

經盛

(勝二持一
負一)

隆信

(勝一持二
負一)

季經

(勝一持一
負二)

寂念

(勝一持一
負一)

道因

(勝二持一
負一)

憲盛

(勝一持三
負一)

通清

(勝一持一
負一)

經正

(勝一持三
負一)

廣言

(勝一持一
負一)

朝宗

(勝一持三
負一)

伊經

(勝一持一
負一)

庚子

顯經王勝持三

隆親負持三

仲經負勝持一

廣盛負勝持一

季定負勝持一

安心負勝持一

邦輔負勝持一

祐盛負勝持一

懷經負勝持一

憲經負勝持一

智經負勝持一

經尹負勝持一

姓阿負勝持三

淨緣負勝持三

中納言君負勝持二

索覺負勝持三

三井寺新羅社哥合

承安三年八月十五夜

題

遙見山花 古鄉子規 湖上月
野宿雪 谈合友忘

作者

左

中納言君 法性寺石益

法橋房

阿闍梨蓮忠 美濃

聖護院住

阿闍梨沈旦 丹後

為盛息

右

小輔君

三井寺南院執行房住

教智律師房

阿闍梨泰光 泰尋法橋息

大後伊多息

為盛息

肥後君の智

巻人公賢辰

大進君智選
讃岐君觀宗

常陸公乃役

少將君智經

信平息

出羽公長照

佐公良敏

淡路君忠経

佐忠息

講師

佐公良敏

讀師

巻人公賢辰

判者

從三位行皇太后宮大夫俊成

一番 遠見山を

左 無

中 納毛君

右 雪山あるのあらそよあらそハ冬の雪れどもめがり多

太

お物思

みよしめあらそやまくわゆるひよりあらそもも清やぢのりと
ち被婆ん優ヌ候アメリ但あとの挂ヌといつてもやも
各あらそむやうよざるんちあらそ山のこととて
あはらそもふまくあらそハおーととあらそタ
もくとづくやはあてたくやあらそんたのあこ乃とま
ふとと難はあくに務とヤ

二番

左

阿冥梨草思

トコメテハモホラシヒヌヤア構アムヌソウハリテシモアヌ

太 稲

阿闍梨泰光

おまことにひくつよかあやう様ひくう花のきりあがまん
おまつまゆくへくひアセ等にもよろうひとひまえ
まゆをとくへおまくらんそれあくめうなとこそ
ゆくもとくあくへおのじくも乃まうめあくん
といふ寄ひくあくもあくふまうもあくあくまく彼
白毫の毛乃一カ八千世界を照へあくもへてあくろ
ちくふやくあれ縁

三番

た る

阿闍梨泰光 盘

却いづくゆくやまくは因や苦じくそめれ化はあくぬゑ

阿闍梨泰光 太

まくらやくまの里ふねとみて小泊深山乃むとくうの那

おまつまゆくと云字とくまゆゆめいおくへまくはあくぬゑ
乃くめとむくまゆくとすくほのてあくやうよ
ゆくんち被れ海螺集よくへんのまくよくまくせん
とくまくと唐突へ色せくやあくんちく或の
まく合へゆくやうたう被れよや仍まくまくまくして
事ありまくまく唯くあれ縁

四番

た る

阿闍梨泰光

太

智者達大達

まくらゆく紀をやくくじ吉野山とくまくまくぬくまくとくく風林已
たのまくらげくといひ太乃まくとくとくとく風林已
等やく望急同よくうてあれ縁

五番

左 お

賢辰 善人

太

觀宗 澄翁

たゞひみどりやひうしもとそよてはやくふすまく山くらべ
左の裏風且零落峯雲不懸きとつるわいと
ちよすすきとくわとあくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
あくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
又おがくく

六番

左 お

名徳 き徳

右

長照 お羽

あつむくらむくらむくらむくらむくらむくらむくら
左の東乃もの冠つにきといとくくくくくくくく
とよよみくのとくのとくのとくのとくのとくのとく
固ハ舊きことの合つむじくのとくめめめめめ
ちね遠の字をあまうてゆれうそあつとあじわせ
うちれとあつとくとくとくとくとくとくとくとく
ミキよへあくねとえひらまよ似うだ咲季
つひとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

七番

左 お

信親 脩公

うそふれとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
山くらべ匂いとくとくとくとくとくとくとくとくとく

智達 かね

太

新羅

四

三

朝うはくわねとやまきはあらうつやひまひ乃様ありなり
げ番あそそりふくよめあうそくへおれえ行しや
うばんのよやひとをくまとりて彼まのやまへを
くれとひよ古とあひ出づれまくらひまくあら
をたの移あそべ

八番

忠義傳

左 番

まよきにそらあめをやまん山篤ちきはものめうすりふ
左 番

忠義 傷

まよきにそらあめをやまん山篤ちきはものめうすりふ
左 番

事あれともうそりやまんばよゆうやうりて以ふ
左 番

中納毛馬

あてりこあきあたゆあひやくまにあとまほのあよきせ

右

か浦

か浦の岸はる原のほくまにあひちにあくとせりと
左 番

存古風真入幽玄但郭公高聲強非其
廣樂類右歌どうじんじうくいとせりと彼てよ
か浦の岸はる原のほくまにあひちにあくとせりと
む但あれひげほり居とせりとひくとせりと
こそれよきのあきとあくとせりとせりと

おあそべ

十番

たお

まなぶ

ほくまむるうそよあくちひとつそく人の位あくあす

右

泰見え

いづれをありひかてややとひをあとまほのあよあこん
じ番ちりふ優よそゆめられ名古山と國つちきろ候
箕子之作多秀詩周大夫之成忝離章三あいに
あくへき津まを右とありひかせとりひてはい
おとくすゆうらへりづれをゆどもくあられり
ゆゆうりて又あれ

十一番

左

達

あうもうじとつがくのふ音もだりぬ猿のえうせ

右 猿

新猿

あみあみうつひをそくやまにうひよきとく人きつとも
たのうううあうもくりこそむくありされとくうを
卒教とせざるく一ゆく極も絶すかたれとま合
乃ゆるち絶あまうけきうつやあくんちよすうゆ
をそくくととまてゆくひとくさくともとく
いづれく右の猿とく

十二番

たお

ぬ智

こうさんとやゑふやくまにあまけり里あれうあくせ

右

智選

あれうたうめまひ候くまにうふみせしゆくとく
左右あそとく同海優也但不委細在あれ

左

十三番

大勝

豊原

里のあらまく人へようすがあれどもあらうがよなくゆるる
古

歌ふ

淺茅山のうさうよもくみ歌あわせしやありひつん
大あれをもまくもひとつとすとすとせま
あはいあくへアヘ但古今のを歌乃る七のむと
そよぎとくんこや五合のとくにれ四往あくく
往くんをう郭よりともくとよろすすなれ
そやあもしもとちのうもじれれたの勝と
アハクン

十四番

大勝

道禪

いとめりあらもあはくにせきとみよあうやせり
古

長照

まき人もあたかくよけくうにまくはまくよくやあくえ
二首乃郭 あうりふしきとみよんにあく又曰く
優よんゆをたひ花うちれりととくふよわい
くわうきくゆ仍又大勝

十五番

大勝

佐就

すみちや里の子せよあらのうしよ歌あうへようせん
古

智穂

あまよる宵の移ほくひに誰をあくとるありえん
たま郷里殊已亥山鳥聲獨新よりすは優
よゑわあらやうのともあよるとづくよくまく

十六番

左 稔

右 敏

もじもじとおどりて遊ぶをうつすまし

左

右

あまきとくとく人ともとくぬ古すはとくまくふ郭へ云そへ
ちかのやまとまにまわるとくくふとくとくんへあが
きとねたをゆつひかひまくわなまへてやうの
すへづくもくうりわつとくやひをいふ人ありぬへき
牛あれこれ法華乃弟子品の文すや天見人人
見天とおせと人天交接兩得相見とりいつきも
しこ日あをすやすうよゆんもがくくらわれ
もほらむすすよゆくやいのうの傍とく

十七番 湖上月

左 稔

中納言君

あらももく志がまの浦きて舟をみゆくもとひなめらむくら

右

少輔公

みくせへめももくらむくら水のあよみらてももくらむくらの月
たまくらむくら谷たぐく傷よゆめりをのちくらても
すめるもとくすまえのうさいとあくまくばくももくら
くらくらとくらむくらの月のこくらやまくらの月の
くとくすくらむくらの月の月あくら

十八番

左 稔

蓮忠

月清をあわる乃く人神よおてあそびだく神そまゆ

右

泰光

そりみぬ事とくまゆ日影をめぢ渡りするあともやう
たゞ西が浦より漁の人の上野と左ハ諏訪の海を
かうむらおとくとくさんとあれとありふよ
あも一持とこそそぞり

十九番

左持

證兼

さくはやあく浦つるすて宿れり身をひきけらきり

右

親實

因氣りあつこのあよみちぬまへすとあやひぬ鏡とそぞる
左哥もくらとうくわゆすてとりすや
月すそ風のくらうりとやあくくらんとそばす
右三心抱かくいやすと鏡匣あまうよ巨
ちうやあくんね又持とそぞくそぞくや

二十番

左持

四智

あくみ夜ハよと入はよまじ有とまくぬつらと風ひくよ

右

智邊

あももくさうつ乃浦よとくよや浪花ちよてくに日影
左ふとくわふ姿んあくくへやのせば但さくぬつら
とづる舟をもととそいもとほきにほきと是れ
とくふとくじくねんうへー右を浪花ちよかふと
りく姿をくうくうせばあもとくのくらん
事やくと波盡寧うあよくうくへまもひとくせ
あれどもおとく

二十一番

左

賢辰

うはりあらうみ浦まで源流もまかまくに自乾
右 稲 韶ふ

わきや志がるの浦りよ月をめぐらにうふ沖のうす
じあそとくりくふあくくこまくはれた風神尚
故實ひりつてゑてゑてゑてゑてゑてゑてゑてゑてゑ
さうあら新羅の浦あり眺望一下一見し
けくうハ角くめとくらやうよゆうよ掉教一曲
釣漁翁といふのくらうあわげてんがくくやる右
いそん鷺りゆく

二十二番

右 稲

左 あ

かくすやえの浦のあや乃にようてこそかう秋の暮月

右

毛無

月落とみよみの浦乃ませにきわかう志がるの浦りよ月
たえくみの浦の浦とくらうきの浦とくらう
つう船あくべーたことあくせんあけきともあくせん
あかくねをとくらうあれをとくらうくやめとくらう
あくふくうて又おとく

二十三番

左 稲

信親

右

智姫

あらうてとひとうなまくわうこの浦乃りうと月を生むれ
まく浦やひう乃の月をめの浦よまくをまくせぬ
浦乃りうととくらう浦ゆいくらう但月をて
ほやまくじくらんとそやすれときも湖をみて
そまん事あとももうつ乃浦ハ月をまくせてばれ

アホのアホやモハはまくらんとまくられと沖
ヨモギのヨモギとモモモスリときたたのひと
つよきのとよき婆もこへまくらりやん

二十六番

左あ

立敏

ムシムシムシ月のあとんをあくまき娘よむうあれ唐詩

右

立敏

ウムシムシ日朝やくに朝のあさあくわら浦のうよそす
丸さく浪よむくとひつゆなあれうすうれせ
内へあきとづくとくに優よけめり太日氣で
そよとづくはとくにあくにやうだれとくも
浪のとづくあれらは又よくあきとぞくよす
あけねやくへ

サト番 野宿雪

た持

中絶言君

雪ふくらまのまくとひくふう船もゆくあひのせや

右

中絶言君

雪ふくらまのまくとひくふう船もゆくあひのせや
ちうれ私の旅のそ景のかのまくとひくふう船
うれやもたすあうれすとくらもまくらん旅の宿と床
まえんすもまくらとくらまくらんやへとそやすれと
まくらぬいあきとひくふう船もゆくあひのせや

二十六番

左あ

立敏

あ業うら店うへとくまゆ殊みふくとせばまことやほせう

右

立敏

ありうむまふとく業あらうを庵へそ家へたん庵はもとほ
たるのまへをあ庵もやまを業はせはせては已同科
無差別猶る持

二十七番

左 稔

浅葉

まよふとく枯壁乃野色の様ひこそ多とそよめりありれ
左

就言

めうきそめと風ひ一野ひ乃まの庵よりも日暮じとくわゆ
たる枯壁のまひのあれもあふさすとすめ左乃
まよ自殺とつて事そ見ゆる地されとぞ
あやこはくにうすすあるくよ様ひあくせんへー但言
ほじとも野色乃庵よ日暮とくしまん事つこれ
枯壁の野へうせすとひまされとあれよくまと

二十八番

左

鷺

産ふに野のまよまよはひつゝまよまよふむけまよ

右 稔

鷺

たるまにまよまよまよまよてゆく人をまて野の相を
あ首の风狩能る因材のまわのむかひてま
くやあんちま野宿の徒類の前達く行人さ
もあすとやもたれ

二十九番

左 稔

賢辰

まよふとく野原乃まよやまよて庵よまよまよ花う

左

就言

やまと風よ拂ふのまゝうかがひ、わざうちまくまきの下
左次りい優より店よまつとひつまきよまつ乃
こうろきやすめとくわてまよしくもとひふ
てすまきーへやまくさん左上のものひよせ
まよせのまよせじゆきまよせじゆきまよせじゆき
まよせまよせじゆきまよせじゆきまよせじゆき
まよせじゆきまよせじゆきまよせじゆきまよせじゆき

又えき

三十番

左

道禪

いとくらく猿ねの床のまうよきようはとう聖ふる葉

左房

長照

そしやあくへとひだれときまくろよきつむ
やううそみゆくまといひ序ふたのまよくらくや
石うい聖くらむてとひく日ねりんやあく
かくくん但ち紙右かきうゑ

三十一番

左

佐親

あらまくまのうりまをまかねとほくを増れ聖の精ひ

左

智經

あふうのうりまのうりまをまかねとほくを増れ聖の精ひ
左太る祥共飴其花頗忘其實歟きのうりまを
ぬうりまそひん又おれ仍可るな矣

三十二番

左房

貞敏

度にあつてのをとひとあらむおもとやれが言ふをきく

太

太翁

ぬまほのあまのまへをあらせよまへすまへをまほの度を
じつととよもあらせよまへすまへをまほの度を
だれとふくらへくやも翁とやへ

三十三番 談合友意

九

中納言公

ちくまへと神よちくひ 姉うとも思けぬえとをなそね
太翁 少輔公
あくまのアソテねやとうひあくまをあそテたまはまうにあ
たまアムアカハルハルハルヒトスミセラ皆う一ちくま
あそアムヤ何キソトヤウレヒトクモのアソテぬ
きくづるふんくゆまてアソテたまらあくへ

三十四番

太

喜太

力とほめかくふまうよやかよとて意うちもとほくふく

太

泰三

あくまのあく人のつまうよやかよとて意うちもとほくふく

三十五番

花兼

あくまのようりあくほくう人のひくもおひくへらひく

太翁

朝之

あくまのようりあくほくう人のひくもおひくへらひく

左翁已及法人ニ風字比為度庭と霧取れ矣

まひつひのむじよあくにやくいんをす依比角

矣僕燒心懷其理可然仍以不為猶

二十六番

左 お

圓智

なきしめにあくやへてぬや乃見方まうせ
右

智選

いもくといひてなくましもむたひゆみて日と月と人
たうどつぶあめありちとちう難うとづくと
も教よみん事くやれねまく

三十七番

左 ね

賢友

いふをと事よぐよくわらの病ひつまへかうと
左

觀音

がむすらあくまくこまうかよまじりじわの聲を

左病初の病のあくら左乃あひるんは乃あく

一といづれもあくらむかほひくにおくに

三十八番

左 お

道禪

あゑりゆくよもあくぬくよくあくまくやまやま

左

長照

るくさくあまにあくらむそあくまくとまく

あまのえ縫員又かぬくにあくらハシのまよ

まとうむすへその人よしとその人よもくと問

うしあく他によ傍をう内志言頗苦諒あうる

是もあくば又おもく

三十九番

左

住親

思ひのたのじやうをうかくしゆでこととひよそあらわ
太 稔

知 道

思ひのたのじやうをうかくしゆでこととひよそあらわ
太 稔
左 依
左 依為頼中雖談殆以可遇路不指といふも
一くやも太称勞友あ君以忘主懷若妹に又
りひつまくゑも但右乃末のものみ发則をすとせ
んあはれうきうきうやがハ筋あらへ

四十番

左 稔

言 敏

あひまのひあどひのまにあうもあひまへーと又うりせす
太 稔

知 道

あひまのひあどひのまにあうもあひまへーと又うりせす
左 依
左 依又うりあうふ仰うりうりて以たみ移

ううへとあくくやむあくもうる答へうけきと又
させうへとあうふ仰うりうりて以たみ移
ううへとあくくやむあくもうる答へうけきと又
させうへとあうふ仰うりうりて以たみ移

先日所給預之哥合如形加判詞所進覽り也日來
雖有種々病疾且難宵冥令旦依恐神魔相扶
撲切り也抑近來和語好道家處多以蜂起然而自
陣事不驚思給之處於今度哥合者殊感真不少
者也三密瑜伽之壇傍暫寐榜本之風一乘止觀
之窓前遙望湖上之月即參稽新羅社之廣前
各講誦豈芦原之舊跡以更為分此勝劣誤彼
召最愚判一為恐一為悅者終以拙身之虛名

及衆徒之高聞已可為今生名譽後世資糧也但愚判之趣定不叶衆心俟候此條聊畏申之由可然之様可令披露給候也頓首敬白

十一月五日

皇后宮大夫俊成

謹上

石藏法橋御房

勝負

左

中納言君 猶二員一拍二

蓮忠

員一拍三

證兼

猶一員二拍三

明智

員一拍四

賢辰

猶一員一拍三

道禪

猶一員三拍二

信親

猶三員一拍一

良敏

猶三員一拍一

